



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月30日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社

上場取引所 東

コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 西田 寛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長

(氏名) 長尾 拓昭

TEL 075-841-9385

四半期報告書提出予定日 平成25年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	3,003	4.6	239	46.6	240	67.3	170	20.5
25年3月期第1四半期	2,871	1.8	163	△13.9	143	△16.4	141	6.7

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 185百万円 (31.2%) 25年3月期第1四半期 141百万円 (△3.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	8.59	—
25年3月期第1四半期	7.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	17,105	4,534	23.3	200.47
25年3月期	17,418	4,403	22.1	193.64

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 3,989百万円 25年3月期 3,853百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,800	1.9	310	10.3	280	12.6	260	△5.4	13.07
通期	11,400	0.3	380	9.8	310	13.2	300	△10.2	15.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	20,000,000 株	25年3月期	20,000,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	100,293 株	25年3月期	100,169 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	19,899,714 株	25年3月期1Q	19,903,229 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。
なお、業績予想については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、国の積極的な金融政策、財政政策等を背景とする円安の進行や株価の上昇、さらにこれらに伴う一部の個人消費の持ち直しもあり景気回復の兆しが見られた一方、電気料金や原材料価格の値上げなどの懸念材料も生じ、先行きについては依然として不透明な状況のまま推移しました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、お客様目線を意識した営業活動を推進するとともに、安全輸送の徹底と収益の拡大に努めました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は3,003百万円（前年同期比131百万円、4.6%増）となり、営業利益は239百万円（前年同期比76百万円、46.6%増）となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は240百万円（前年同期比96百万円、67.3%増）となり、特別利益および特別損失ならびに法人税等を加減した四半期純利益は170百万円（前年同期比29百万円、20.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 運輸業

鉄軌道事業におきましては、嵐山線では、桜が本年3月中に開花したこともあり、当第1四半期における花見のお客様の出足は低調でありましたが、ゴールデンウィークを中心として、全国各地から多くのお客様に嵐山へお越しいただきました。特に、本年3月の交通ICカードの全国相互利用の開始以降、鉄道ネットワークのさらなる拡充によりお客様の利便性が向上したことでICカードの利用頻度は増加しました。一方、営業面におきましては、旅行エージェントに「嵐電一日フリーきっぷ」を組み込んだ企画商品の提案を継続して行い、修学旅行・個人旅客等の誘致に努めたほか、「貸切ガイド電車」などの企画商品を充実させることで団体ツアー客の誘致にも積極的に取り組みました。また、叡山ケーブル・ロープウェイでは、ゴールデンウィークを中心に天候に恵まれ、堅調に推移しました。今後も夏季に向けての集客イベントを企画するなど、比叡山・八瀬地区の活性化を図るための準備を進めています。設備面におきましては、本年3月、安全対策向上のための投資を実施したほか、嵐山駅の改札口を撤去し、お客様が集まる駅施設として再整備を進め、本年7月には同駅全体を自由に回遊できる街に溶け込んだ駅としてリニューアルし、嵯峨嵐山観光の出発点としての機能を充実させました。特に、「日本と京都を表現したone and onlyの駅空間」をコンセプトに、森田恭通氏がデザインした「魅せる駅」として新たな観光スポットを創出しました。

バス事業におきましては、京都バス(株)では、本年3月に既存路線の見直しや新規路線の開設を行うなど、お客様の利用動向に合わせたダイヤ改正を行い利便性の向上に取り組むなど、きめ細かなサービス提供に努めた結果、減収傾向が改善されました。また、京福バス(株)では、既存路線とコミュニティバスを効率的に組み合わせるなど、お客様のご要望や地域特性を考慮したダイヤや運行経路の策定を行ったほか、北陸新幹線金沢駅開業以降の福井県内での二次交通機関としての利用を見据えた新規観光路線ほかの運行開始準備を進めました。さらに、安全面では、運輸安全マネジメントの徹底、乗務員の体調管理や安全教育を充実させ、事故ゼロを目指した取り組みを行っています。

以上の結果、運輸業の営業収益は1,965百万円（前年同期比23百万円、1.2%増）となり、営業利益は98百万円（前年同期比13百万円、16.0%増）となりました。

② 不動産業

不動産分譲事業におきましては、(株)京福コミュニティサービスでは、福井市の「開発（かいほつ）」および「下江守町」の各分譲宅地を完売するなど、継続した営業活動を実施しました。

不動産賃貸事業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、かねてより進めていた同施設のリニューアル工事が完了、本年7月に全面開業しました。嵯峨嵐山地区では初お目見えとなる新たなテナントに加え、既存テナントにおいても店舗のしつらえの変更や増床などを実施し、お客様にご利用いただきやすい店舗作りにも努めました。なお、昨年8月に取得した賃貸マンション「コンソラーレ土佐堀」については、所期の計画どおり推移しています。「BOAT RACE 三国」では、本年6月に隣接県である石川県に舟券場外発売所がオープンするなど、当施設にご来場くださるお客様への影響が懸念されるなか、施行者とさらなる連携を図り、G1レースなどの誘致や当施設場内での催しを実施するなど、新たなお客様を獲得するための営業活動に取り組みました。さらに、外向発売所での場外発売日数を増やすとともに、発売レース数を増加させるなど増収対策に取り組みました。

以上の結果、不動産業の営業収益は695百万円（前年同期比106百万円、18.1%増）となり、営業利益は153百万円（前年同期比61百万円、67.5%増）となりました。

③ レジャー・サービス業

飲食業におきましては、「中国料理 吉珍樓（キッチンロウ）」、「八幡家（やわたや）」、「京都ぎをん八咫（やた）博多店」では、各店舗それぞれの特色を活かし、地域特性に応じた営業活動を実施するとともに、消費者ニーズに対応した商品の開発、接客サービスの向上やコストの削減等に引き続き取り組みました。

物販業におきましては、フラワーショップ「BOOM」では、昨年引き続き、母の日に「スバコ・JR京都伊勢丹」内に臨時出店するほか、積極的なPR活動に取り組みました。また本年3月、金閣寺の近くに開業した「らんでんや金閣寺みち」では、嵐電沿線の情報をお客様に提供するほか、憩いの場として活用を図りました。

越前松島水族館におきましては、石川県内の「のとじま水族館」や富山県内の「魚津水族館」のリニューアルなどによる入館人員の減少が懸念されるなか、「おさかな館」、「海洋館」、「ペンギん館」、「こんぺいとうハウス」など人気施設を活用した営業活動に努めるとともに、当館の特色のある展示や催しものを企画し、お客様に当館ならではの楽しみ方を提供しました。三国観光ホテルにおきましては、企業研修利用増により増収となったほか、東尋坊温泉開湯50周年を記念した企画商品の開発などを行い増収に努めました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は497百万円（前年同期比9百万円、2.0%増）と増収となりましたが、売上原価や修繕費等の諸経費の増加もあり、営業損失は13百万円（前年同期比1百万円、9.5%改善）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、受取手形及び売掛金の回収による減少などにより、前連結会計年度末に比べ313百万円減少し、17,105百万円となりました。負債は、借入金の返済や社債の償還による減少などにより、前連結会計年度末に比べ444百万円減少し、12,571百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ131百万円増加し、4,534百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年4月30日の「平成25年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,651	1,562
受取手形及び売掛金	1,138	906
販売土地及び建物	71	25
商品及び製品	25	27
仕掛品	—	0
原材料及び貯蔵品	54	52
前払費用	34	37
繰延税金資産	104	76
その他	65	114
貸倒引当金	△11	△12
流動資産合計	3,136	2,790
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,617	8,515
機械装置及び運搬具(純額)	913	873
土地	2,893	2,892
リース資産(純額)	916	886
建設仮勘定	17	228
その他(純額)	242	236
有形固定資産合計	13,600	13,632
無形固定資産		
その他	113	108
無形固定資産合計	113	108
投資その他の資産		
投資有価証券	237	244
その他	310	310
投資その他の資産合計	548	555
固定資産合計	14,262	14,297
繰延資産		
社債発行費	20	18
繰延資産合計	20	18
資産合計	17,418	17,105

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	71	69
短期借入金	3,961	3,670
1年内償還予定の社債	376	376
リース債務	198	195
未払金	606	368
未払法人税等	91	36
未払消費税等	35	86
賞与引当金	236	85
その他	457	777
流動負債合計	6,034	5,666
固定負債		
社債	987	902
長期借入金	3,737	3,750
リース債務	739	710
長期未払金	619	616
繰延税金負債	288	319
退職給付引当金	263	260
役員退職慰労引当金	131	132
その他	213	213
固定負債合計	6,980	6,904
負債合計	13,015	12,571
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	270	270
利益剰余金	2,556	2,687
自己株式	△14	△14
株主資本合計	3,812	3,943
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41	45
その他の包括利益累計額合計	41	45
少数株主持分	549	545
純資産合計	4,403	4,534
負債純資産合計	17,418	17,105

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業収益	2,871	3,003
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	2,675	2,732
販売費及び一般管理費	32	31
営業費合計	2,708	2,763
営業利益	163	239
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	3	3
負ののれん償却額	—	11
雑収入	6	9
営業外収益合計	10	24
営業外費用		
支払利息	23	20
社債発行費償却	1	1
雑支出	4	0
営業外費用合計	29	23
経常利益	143	240
特別利益		
補助金	3	—
固定資産売却益	4	30
特別利益合計	7	30
税金等調整前四半期純利益	151	271
法人税、住民税及び事業税	15	34
法人税等調整額	△14	56
法人税等合計	0	91
少数株主損益調整前四半期純利益	151	180
少数株主利益	9	9
四半期純利益	141	170

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	151	180
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10	4
その他の包括利益合計	△10	4
四半期包括利益	141	185
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	132	175
少数株主に係る四半期包括利益	8	9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	1,935	525	410	2,871	—	2,871
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	6	62	76	146	(146)	—
計	1,941	588	487	3,017	(146)	2,871
セグメント利益又は損失(△)	84	91	△14	161	2	163

(注) 1 セグメント利益の調整額2百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	1,958	625	418	3,003	—	3,003
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	6	69	78	154	(154)	—
計	1,965	695	497	3,158	(154)	3,003
セグメント利益又は損失(△)	98	153	△13	238	1	239

(注) 1 セグメント利益の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。